

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530156

研究課題名（和文） 中国の地域一体化戦略における内・外政治力学

研究課題名（英文） China's Engagement in Asia: the Evolving Interaction between Domestic and International Politics

## 研究代表者

青山 瑠妙（AOYAMA RUMI）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：20329022

## 研究成果の概要（和文）：

1990年代以降、中国の地域一体化戦略は三つの時期を経て、大きく変容してきている。こうした変化をもたらした要因は主に三つあると考えられる。

第1、米中関係は中国の地域一体化戦略に強く作用する要因の一つである。中国とアジア地域諸国との関係は、常に米、中、第3国の三角関係において揺れ動いている。

第2、中国の経済発展戦略の在り方も中国のアジア戦略を変容させている。

第3、分断化された権威主義という政治体制も中国のアジア政策の方向性を規定している。

## 研究成果の概要（英文）：

China's diplomacy towards surrounding countries has undergone significant changes since the 1990s spanning over three periods.

There are several factors behind these changes. First, the Sino-U.S. relation serves as the most important determinant. The interaction between China and its neighboring nations should be understood in the delicate triangular relationship among the United States, the states in Asia, and China. Second, economic benefits were a strong motivator towards China's engagement in Asia. Third, the fragmented authoritarianism framework is a useful analytical tool for understanding the policy making process in China.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：現代中国の外交

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：アジア地域統合、中国の外交

## 1. 研究開始当初の背景

1990年代以来中国は積極的に「周辺外交」を展開している。アジア地域へのこうした取

り組みは中国外交（対外問題にかかわる管理体制及び対外政策）ならびにアジア地域の国際関係を変容させている。

研究開始当初、本研究は中国周辺外交の政策の全貌を明らかにするとともに、周辺外交の展開によって生じた対外問題にかかわる国内政策形成の変化、中国と周辺国家との関係の変化を分析しようとした。

## 2. 研究の目的

既存の先行研究を踏まえて、本研究の目的は以下の三つに集約することができる。

### (1) 中国のアジア地域戦略

中国と SCO、中国と ASEAN、北東アジアの国際関係に関する先行研究を踏まえ、この三つの地域における中国の対外政策とその展開について実証研究を行い、中国のアジア戦略の全貌を明らかにするとともに、その特徴をつかむ。

### (2) 中央と地方との関係

中央政府は SCO 諸国、ASEAN 諸国との経済関係を積極的に促進しているが、地方政府も主体的に隣接国との準地域経済連携、経済圏の形成を精力的に推し進めている。西部の重点地域は、新疆、内モンゴルを中心とした西北開放区と雲南、広西を中心とした西南開放区である。西北開放区は SCO や中央アジア地域経済協力と直接結びついており、西南開放区は中国と ASEAN との地域協力と密接にかかわっている。本研究はこうした地方政府の主体的な経済発展戦略に焦点を当て、中央・地方関係にかかわる対外政策の体制の変化並びに対外問題にかかわる中央と地方の政策の相違を明らかにしたうえで、対外関係における中央政府のガバナンス能力を確認する。

### (3) 中国と周辺国との関係

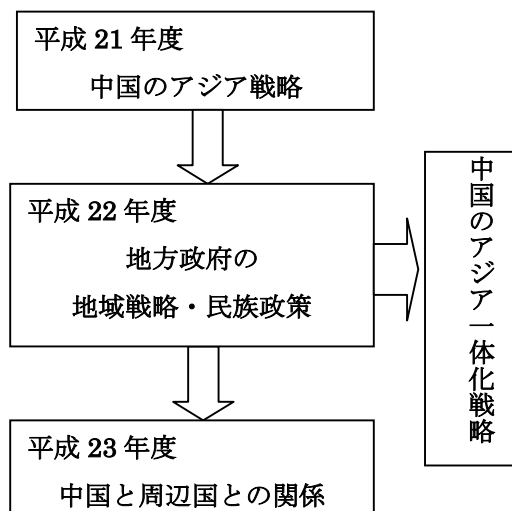
政府間協力協定により、経済、文化を中心とした中国と周辺国との関係は強化されている。他方、親密化する中国と周辺国の関係の背後には経済摩擦、環境問題、民族問題などさまざまな新しい火種もくすぶっている。

このように中国と周辺国との関係は構造変化の過程をたどっており、中国を取り巻くアジアの国際関係や従来のバランス構造にも変化の兆しがみられる。本研究は中国と周辺国の二カ国関係を中心に考察し、こうした変化がアジアの国際関係全体にもたらす影響も併せて検討する。

## 3. 研究の方法

先行研究を踏まえつつ、中国における実地調査を基礎に、三つのテーマから中国のアジア地域一体化戦略を明らかにする。

また、本研究は、中国対外政策の政策決定・実施体制、政策変化、民族問題にかかわる中国の国民国家建設、中央対地方関係にまつわる中国の政治ガバナンス、アジアの地域統合問題とも深くかかわっているため、既存の理論研究に関するリサーチを適宜行い、中国に対するケーススタディから理論へのフィードバックも心掛ける。



## 4. 研究成果

本研究において以下の三つの問題を中心に考察を行い、研究成果として論文をまとめた。

### (1) 中国のアジア地域戦略について

冷戦終結後の中国の周辺外交は活発に展開

されており、こうした中において変化を遂げている。中国のアジア地域戦略は三つの段階を経て現在に至っている。①冷戦終結直後の周辺外交は隣国との交流を中心とした国境地域の安全保障と安定に軸足を置くものであった。中国は外交関係を回復・構築することから始まり、次第に周辺国との陸上の国境線を画定した。②1996年以降、特に1997年のアジア通貨危機後、中国は周辺外交を本格的に展開し、アジア地域の協力とアジア地域の秩序構築に積極的に関与するようになった。③2006年ごろから、経済発展とともに国家の主権と安全の擁護が外交に求められるようになったことで、アジア地域に対する中国のアプローチも変化を見せ始めた。新しい外交方針の下でも、周辺国との協力を深めるという既成方針には変化は見られなかったが、それと同時に、民族問題と海洋権益問題など「国家の核心利益」をめぐる問題においては、中国と周辺国との摩擦は増加し、今後過熱する可能性がある。

中国の「アジア一体化」戦略は、突き詰めて言えば「国境経済圏アプローチ」と呼ぶことができる。特に2000年以降の中国の動向からみれば、中国は、モノについてはFTAによる標準化作業を推進しており、カネについては人民元決済の拡大を狙っており、また地域銀行の設置も促進しようとしている。こうした意味で、北東アジア、新疆や内モンゴルを中心とした西北開発区、広西や雲南を中心とした西南開発区などの地域経済発展戦略は、中国を媒介とした東アジア地域の実質的な統合につながる可能性を秘めている。こうした協力を通じて、中国はまた自国の影響力を高めようとしている。

## (2) 多様化するアクターが対外政策に与える影響について

中国はもはやモノリシックの社会ではな

く、対外政策に関しても地方、各省庁さらに学者の間から様々な声が上がようになってきた。ここ20年の間、中国における政策決定の様相は大きく変化している。

権威主義体制のもとでは、中央指導部の政策方針は対外政策を左右する上で依然としてもっとも重要な意味を持つ。他方、中央の政策方針のあいまいさ、ルーティンの政策決定が各省庁に委ねられているという中国的政策決定の様式は多様で、時として矛盾した対外政策を生み出している。

さらに既得権益層の出現により、中央レベルにおける利益調整はかなり難しく、多くの場合においては、統一された明確な中央の決定がなく、いわば「討議はするが決定せず」といった状態が続いている。こうしたなか、現行の外交政策の「受益者」を中心に、現行の対外政策を強く擁護し、推進する省庁や地方政府が存在している。既得権益層により国家の政策が分断化され、中国の成長モデルの構造的転換を阻んでいるといわれている。既得権益層の存在は中国の対外政策を硬直化させている。

## (3) 変容するアジアの地域情勢について

改革開放がスタートしてから30年あまり、とりわけWTOに加盟してから10年あまりの中国の歩みは中国とアジア地域諸国の関係を大きく変容させている。イデオロギーを軸に形成されていた中国とアジア地域諸国の団結ないし対立の関係は徐々に崩れ、超大国であるアメリカとの関係、安全保障、経済権益を軸に、中国とアジア地域諸国の関係が再構築されつつある。

アメリカのアジア復帰宣言がアジアの地域情勢に更なる衝撃を与えている。経済的な相互依存関係が深まる一方で、軍事的に対立する米中関係の構図が一層鮮明になった。

アジアにおけるコミットメントを高めよ

うとするアメリカの一連の動きに対して、中国は努めて冷静に対応しようとしている。外交応酬の場では、アメリカの「一国優位体制」に対抗して、中国はアジア太平洋地域の「G2論」で対抗している。他方政策レベルにおいては、中国は「戦略的チャンスを持続させ、延長させよう」に努め、大きな戦略転換を行わないことで対応している。中国の対応を大まかにまとめるならば、以下の三つとなる。

① 超大国のアメリカとの対立はなるべく回避し、摩擦についてはマネージしていく。② アメリカ以外の地域や国々に関しては、経済関係の強化を通じて自国の政治・外交力の拡大を図り、また中国のマイナスイメージの払しょくに努める。③ 全天候型の「盟友」となる国々との関係を強固なものにしていく。こうした政策の「不変」でもって地域情勢の変化に対応しようとする中国の姿勢から、地域大国としての強い自負が垣間見られる。

軍事的な対立が顕著になっているが、経済的相互依存関係で結ばれている米中両国は米ソ冷戦のような対立になり得ない。このような経済的相互依存関係下の新安全保障論が必要とされるなか、中国との間で共通の利益が拡大する一方で適切なヘッジを慎重に模索する必要があるだろう。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① 青山瑠妙「中国の戦略的チャンスは持続可能か」、『東亜』No. 538、査読なし、2012年4月、18-27頁。
- ② 青山瑠妙「海洋主権と中国の政策」、『学術研究(早稲田大学教育学部・人文科学・社会科学編)』60号、査読なし、2012年2月、267-283頁。
- ③ 青山瑠妙「中国『アジア一体化』の戦略

と実像」、『現代中国(日本現代中国学会)』85巻、査読なし、2011年、17-33頁。

- ④ 青山瑠妙「領土問題と中国の外交」、『中国年鑑2011 特集: 波立つ海洋・動き出す内陸』、査読なし、2011年5月、38-44頁。
- ⑤ 青山瑠妙「分断化した権威主義体制における中国のメディア——怒江ダム開発をめぐる」、『学術研究(複合文化学編)』59巻、査読なし、2011年2月、1-15頁。
- ⑥ 青山瑠妙「中国の世論・ナショナリズムと国際協調—怒江・メコン川(瀾滄江)ダム開発をめぐる」、『中国研究月報』753巻11号、査読なし、2010年11月、15-27頁。
- ⑦ 青山瑠妙「書評: 『中国政治外交の転換点——改革開放と「独立自主」の対外政策』」、『中国研究月報』752巻10号、査読なし、2010年10月、41-43頁。
- ⑧ 青山瑠妙「日中関係のリスク・マネージメント」、『学術研究(複合文化学編)』58巻、査読なし、2010年2月、1-11頁。
- ⑨ 青山瑠妙「上海協力機構と中国」、『ワセダジアレビュー(再考、東アジア共同体)』7巻8号、査読なし、2010年2月、9頁。
- ⑩ 青山瑠妙「中国を説明する——中国のソフトと文化交流」、『外交フォーラム』No. 252、査読なし、2009年6月、48-53頁。

[学会発表] (計 2 件)

- ① 青山瑠妙、中国の「アジア一体化」戦略、日本現代中国学会第60回全国学術大会、2010年10月16日、中央大学多摩キャンパス
- ② 青山瑠妙、分断化した権威主義体制における中国のメディア、日本国際政治学会

2009 年度研究大会、2009 年 11 月 9 日、  
神戸国際会議場

〔図書〕（計 4 件）

- ① 青山瑠妙「アジア冷戦の溶融としてのニクソン訪中と田中訪中」、和田春樹、後藤乾一、木畑洋一、山室信一、趙景達、中野聡、川島真、岩波書店、『東アジア現近代通史 8 ベトナム戦争の時代』、2011 年 6 月、312-334 頁。
- ② 趙宏偉、青山瑠妙、益尾知佐子、三船恵美、明石書店、『中国外交の世界戦略一日・米・アジアとの攻防 30 年-』、2011 年、316 頁。
- ③ 青山瑠妙「日本の中国観の変遷と日中関係」、王緝思、ジェラルド・カーティス、国分良成、岩波書店、『日米中トライアングル-3 カ国協調への道-』、2010 年 11 月、233-255 頁。
- ④ Rumi Aoyama, “Changing Japanese Perceptions and China-Japan Relations”, Gerald Curtis, Ryosei Kokubun, and Wang Jisi, Japan Center for International Exchange, *Getting The Triangle Straight: Managing China-Japan-US Relations*、2010、pp. 247-268.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

青山 瑠妙 ( AOYAMA RUMI )  
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授  
研究者番号：20329022

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：